
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **iDWR**

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2011年第13週
(3月28日～4月3日)

- * 2011年4月6日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「アシネトバクター感染症」も掲載
しています。

平成23(2011)年4月7日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2011年13週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		10週	11週	12週	13週	年累計	13週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	74	67	57	57	1,023	328	6,307
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ							1
	細菌性赤痢	1		2	2	13	2	58
	腸管出血性大腸菌感染症	2	2	2		17	4	180
	腸チフス							2
	パラチフス	1				5		8
四類	E型肝炎					4		16
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	3	2			11	2	94
	エキノкокクス症					1		8
	黄熱							
	オウム病			1		1	3	7
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオオデス症					2		2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							3
	つつが虫病				1	7	1	41
	デング熱		1		1	8	1	28
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							
	日本脳炎					1		1
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							2
マラリア		1	2	1	5	1	11	
野兎病								
ライム病				1	1		1	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症		1	1	1	10	8	122	
レプトスピラ症			1		2		2	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		10週	11週	12週	13週	年累計	13週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	5	3	3	42	6	169
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)			1	1	8	2	61
	急性脳炎 *2				1	7	2	92
	クリプトスポリジウム症				1	2	1	3
	クロイツフェルト・ヤコブ病					5	3	26
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1		1	12	2	58
	後天性免疫不全症候群	10	4	6	5	112	6	313
	ジアルジア症				1	4	2	17
	髄膜炎菌性髄膜炎							1
	先天性風しん症候群							
	梅毒	5	4	2	4	48	10	159
	破傷風	1				1		15
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							12
風しん	1			1	3	4	41	
麻しん	2	2	1	1	22	7	93	
新型※	新型インフルエンザ *3	—	—	—	—	—	—	—
2011/4/6集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※ 新型インフルエンザ等感染症

*3 2009年4月28日に指定された。現時点では届出不要。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 57件 肺結核20件、その他の結核37件で、推定感染地は国内56件、中国1件、年齢は5歳未満 2件、10代 2件、20代 7件、30代 10件、40代 13件、50代 6件、60代 4件、70代 5件、80代 8件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 2件 菌種はソンネ1件、ボイド1件であった。推定感染地はそれぞれ国内1件、インド1件で、推定感染経路はそれぞれ接触感染1件、経口感染1件であった。

〈四類感染症〉

つつが虫病 1件 推定感染地はマレーシアであった。

デング熱 1件 推定感染地はベトナムであった。

マラリア 1件 熱帯熱マラリアで、推定感染地はギニア1件であった。

ライム病 1件 推定感染地は国外(シリア・ヨルダン)であった。

レジオネラ症 1件 肺炎型で、年齢は40代、推定感染地は国内で、感染経路はその他(不明)であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 3件 全て腸管アメーバ症であった。推定感染地は全て国内で、性的接触(同性間)1件、その他(不明)2件であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(両性間)であった。

急性脳炎 1件 病原体はロタウイルスで、年齢は10歳未満1件であった。

クリプトスポリジウム症 1件 推定感染地は国内で、推定感染経路は接触感染及び性的接触(同性間)であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 G群で、血液から菌が分離・同定された。年齢は50代、推定感染経路は不明であった。

後天性免疫不全症候群 5件 全て無症候キャリアで、年齢は20代2件、30代2件、40代1件であった。推定感染地はすべて国内、推定感染経路は性的接触(同性間)4件、性的接触(両性間)1件であった。

ジアルジア症 1件 推定感染地はマダガスカルで、推定感染経路は経口及び水系感染であった。

梅毒 4件 早期顕症梅毒Ⅱ期3件、無症候1件、推定感染地は全て国内、推定感染経路は性的接触(同性間)2件、性的接触(不明)1件、その他1件であった。

風しん 1件 検査診断例、年齢は20代、推定感染地は国外(タイ・ラオス・ベトナム)で、風疹含有ワクチン接種歴は不明であった。

麻しん 1件 検査診断例、年齢は20代、推定感染地は国内で、麻しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

※第12週該当分として、五類 後天性免疫不全症候群 1件(無症候キャリア)の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2011年13週

定点種別	対象疾患	2011年					報告医療機関数	定点医療機関数
		10週	11週	12週	13週	定点あたり		
小児科	RSウイルス感染症	29	22	16	20	0.08	258	264
	咽頭結膜熱	81	73	65	53	0.21		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	724	524	443	404	1.57		
	感染性胃腸炎	2,626	2,110	1,347	1,383	5.36		
	水痘	312	306	280	259	1.00		
	手足口病	13	10	5	12	0.05		
	伝染性紅斑	135	107	85	139	0.54		
	突発性発しん	129	124	105	146	0.57		
	百日咳	2	2	12	8	0.03		
	ヘルパンギーナ	5	2	2	5	0.02		
	流行性耳下腺炎	63	66	83	70	0.27		
	川崎病(注1)	3	6	2	2	0.01		
	不明発しん症(注1)	12	16	13	20	0.08		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	6,730	6,316	4,037	3,183	7.76	410	419
眼科	急性出血性結膜炎	1	1	1	0	0.00	37	39
	流行性角結膜炎	10	14	11	11	0.30		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	0	1	0	0	0.00	24	25
	無菌性髄膜炎	0	1	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	15	10	8	6	0.25		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	0	0	0	0.00		
2011/4/6集計								

(注1) 不明発しん症、川崎病は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加した。過去5年平均と比較して高い値で推移している。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は減少し、継続していたインフルエンザ警報は解除となった。
- ・ マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は3週連続して減少した。しかし、過去5年平均の同時期と比較して多い。

(定点医療機関からのコメント)

世田谷保健所管内定点医療機関

- ・ 眼の症状のないアデノウイルス感染症 3名。
- ・ 感染性胃腸炎:ロタウイルス陽性 2名。

板橋区保健所管内定点医療機関

- ・ 感染性胃腸炎:ロタウイルス陽性 3名、病原性大腸菌O127a陽性 1名。

※ インフルエンザの迅速診断結果及びコメントは13頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2011年13週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	2	1		15	4		1	3		
～11か月	9	5	1	88	12	1	4	52	4	
1歳	7	10	15	240	45	1	4	76		
2歳	1	5	24	184	40	2	9	8		
3歳	1	6	32	143	43	2	13	4		
4歳		9	64	107	38	1	23	1		1
5歳		7	53	94	28	1	14	1		1
6歳		6	48	80	15		24			
7歳		1	48	69	12		15	1		
8歳		1	31	55	6	1	12		1	
9歳			16	31	4		7		1	
10～14歳		1	33	98	10	2	9			1
15～19歳			2	26						
20～29歳		1	37	153	2	1	4		2	2
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	20	53	404	1383	259	12	139	146	8	5
先週比	4	-12	-39	36	-21	7	54	41	-4	3

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月				5		
～11か月			4	27		
1歳	3	1	1	98		
2歳	3		5	128		
3歳	6		2	222		
4歳	12		1	269		
5歳	14		1	297		
6歳	17		2	318		1
7歳	4		2	307		
8歳	4			268		
9歳	3			200		
10～14歳	4	1	2	564		
15～19歳				80		1
20～29歳				102		5
30～39歳				130		3
40～49歳				111		1
50～59歳				24		
60～69歳				19		
70～79歳				7		
80歳以上				7		
合計	70	2	20	3183		11
先週比	-13	-11	18	-854	-1	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数 【年齢階級別】 2011年13週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳	1	1
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	1	1

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2011年13週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田				7						
中央区				8	1			1		
みなと	1	3	3	26	1		6	5		
新宿区	1		4	30	2					
文京			2	4	1		1	1		
台東			6	27	3	1	2	2		
墨田区		3	14	11	3	1	5	3		
江東区		2	14	89	20		4	10	1	
品川区			11	52	15			5		
目黒区		1	3	13	2		2			
大田区	2	3	31	88	5	1	10	3		
世田谷	1	4	28	79	9		13	6		
渋谷区	2		3	12	3		1	2		
中野区			2	19	6		2	2		
杉並	2		9	60	13		1	5		
池袋	1		1	13			2	2		
北区				22	7		2	6		
荒川区		2	7	26	2		3	6		
板橋区			2	38	5	1	7	1		
練馬区		6	23	78	22		5	12	2	
足立	1		23	67	17		8	6	1	
葛飾区			6	39	15		3	8		
江戸川		7	27	75	2	2	1	6		
八王子市	2		41	100	18	1	12	15	1	
町田			28	61	18		1	8	1	2
西多摩			2	39	3	1	2	2	2	
南多摩	6	2	17	62	5		7	8		2
多摩立川		1	11	84	21		10	5		
多摩府中		2	31	76	27	2	10	8		1
多摩小平	1	17	55	78	13	2	19	8		
島しょ										
東京都合計	20	53	404	1,383	259	12	139	146	8	5

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2011年13週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				12		
中央区				15		
みなと				47		
新宿区				46		1
文京				11		1
台東	1			26		
墨田区			2	50		
江東区	2			146		1
品川区				68		
目黒区	2			43		1
大田区	1	1	2	188		
世田谷	5		2	210		1
渋谷区				9		
中野区			2	52		
杉並	3			92		
池袋				48		1
北区	2		2	78		
荒川区				61		1
板橋区	1			44		
練馬区	6			120		1
足立	1			250		1
葛飾区			1	131		
江戸川	3			209		
八王子市	3		1	300		
町田			5	164		
西多摩				32		
南多摩	9			151		2
多摩立川	9		1	149		
多摩府中	11	1	1	262		
多摩小平	10		1	157		
島しょ	1			12		

東京都合計	70	2	20	3,183	-	11
-------	----	---	----	-------	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区	1	
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		1
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
町田		
西多摩		
南多摩		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	1	1
-------	---	---

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2011年13週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				2.33						
中央区				2.67	0.33			0.33		
みなと	0.17	0.50	0.50	4.33	0.17		1.00	0.83		
新宿区	0.13		0.50	3.75	0.25					
文京			0.67	1.33	0.33		0.33	0.33		
台東			1.50	6.75	0.75	0.25	0.50	0.50		
墨田区		0.60	2.80	2.20	0.60	0.20	1.00	0.60		
江東区		0.22	1.56	9.89	2.22		0.44	1.11	0.11	
品川区			1.38	6.50	1.88			0.63		
目黒区		0.20	0.60	2.60	0.40		0.40			
大田区	0.17	0.25	2.58	7.33	0.42	0.08	0.83	0.25		
世田谷	0.06	0.25	1.75	4.94	0.56		0.81	0.38		
渋谷区	0.50		0.75	3.00	0.75		0.25	0.50		
中野区			0.29	2.71	0.86		0.29	0.29		
杉並	0.20		0.90	6.00	1.30		0.10	0.50		
池袋	0.25		0.25	3.25			0.50	0.50		
北区				3.14	1.00		0.29	0.86		
荒川区		0.50	1.75	6.50	0.50		0.75	1.50		
板橋区			0.20	3.80	0.50	0.10	0.70	0.10		
練馬区		0.46	1.77	6.00	1.69		0.38	0.92	0.15	
足立	0.08		1.77	5.15	1.31		0.62	0.46	0.08	
葛飾区			0.75	4.88	1.88		0.38	1.00		
江戸川		0.58	2.25	6.25	0.17	0.17	0.08	0.50		
八王子市	0.18		3.73	9.09	1.64	0.09	1.09	1.36	0.09	
町田			3.50	7.63	2.25		0.13	1.00	0.13	0.25
西多摩			0.25	4.88	0.38	0.13	0.25	0.25	0.25	
南多摩	0.67	0.22	1.89	6.89	0.56		0.78	0.89		0.22
多摩立川		0.07	0.79	6.00	1.50		0.71	0.36		
多摩府中		0.11	1.72	4.22	1.50	0.11	0.56	0.44		0.06
多摩小平	0.07	1.13	3.67	5.20	0.87	0.13	1.27	0.53		
島しょ										

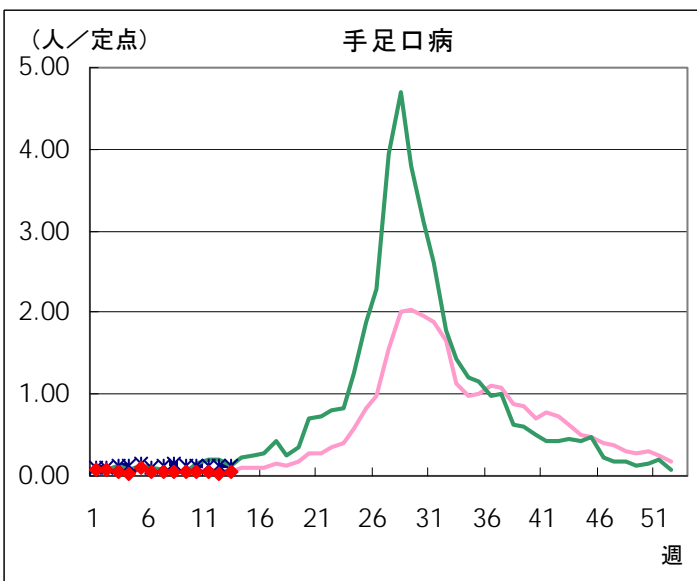
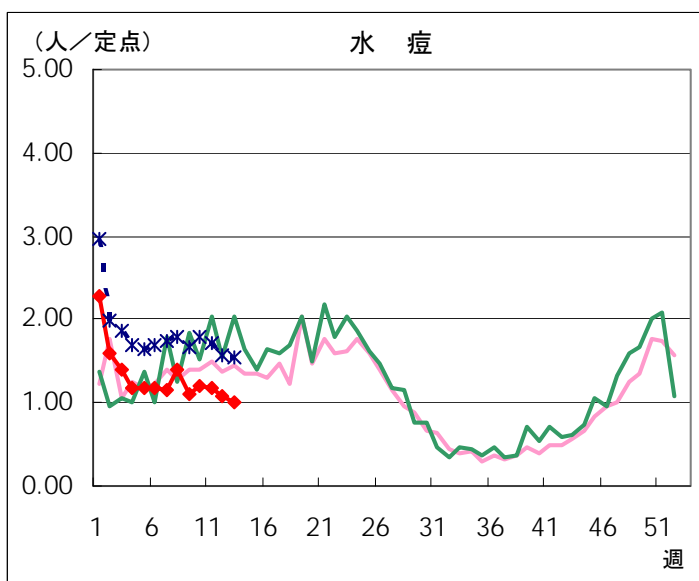
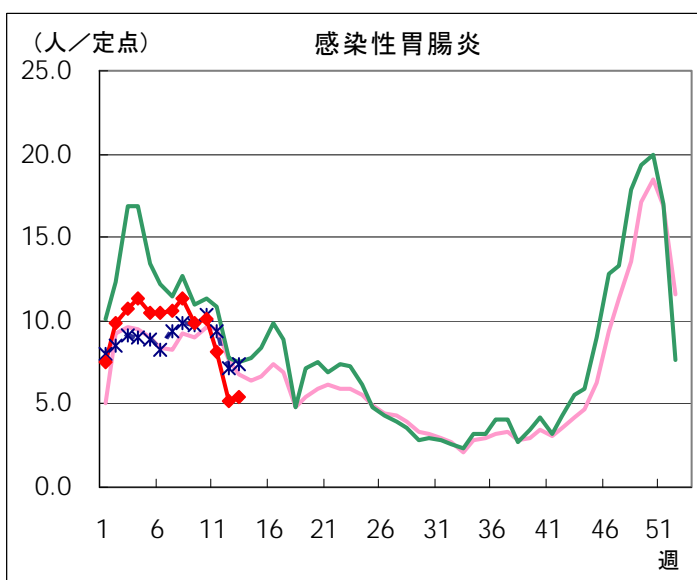
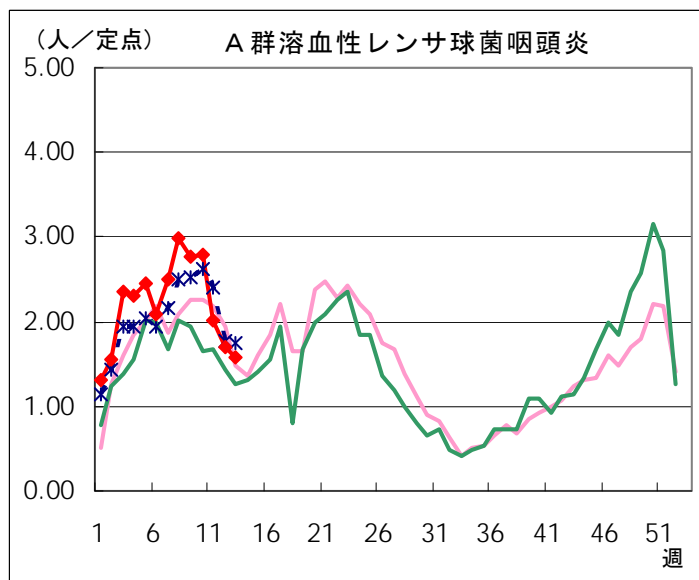
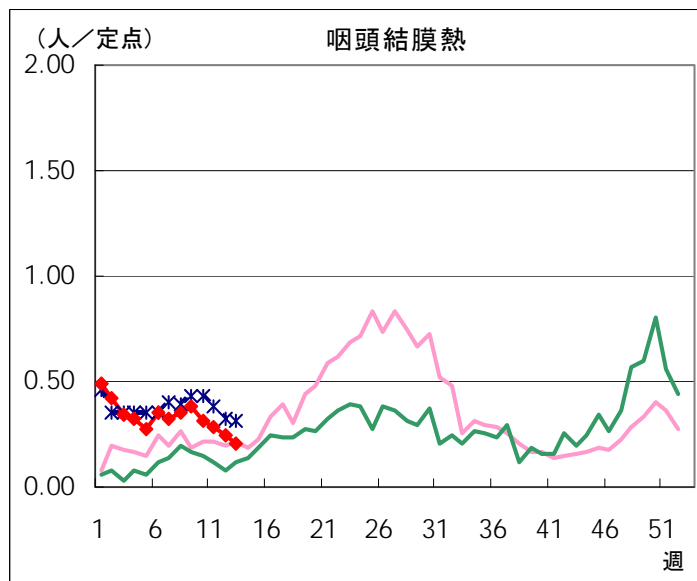
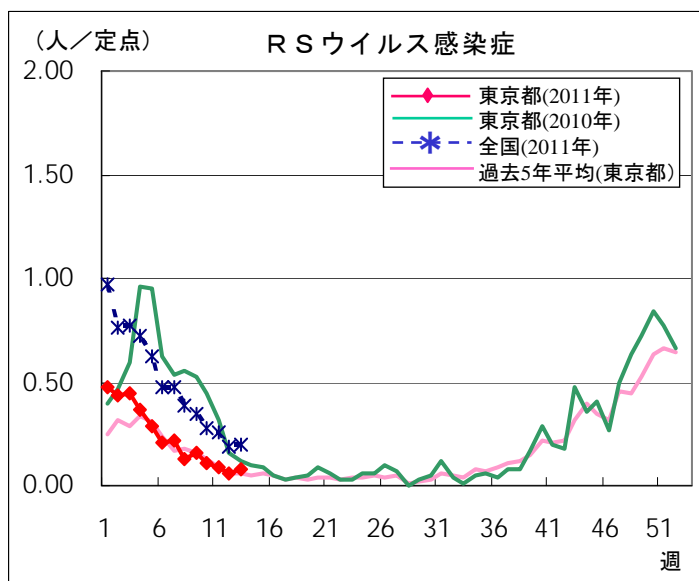
東京都	0.08	0.21	1.57	5.36	1.00	0.05	0.54	0.57	0.03	0.02
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

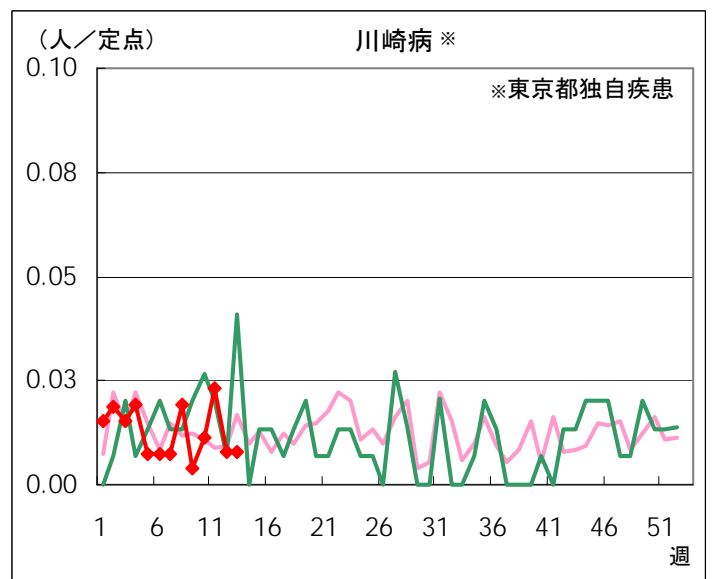
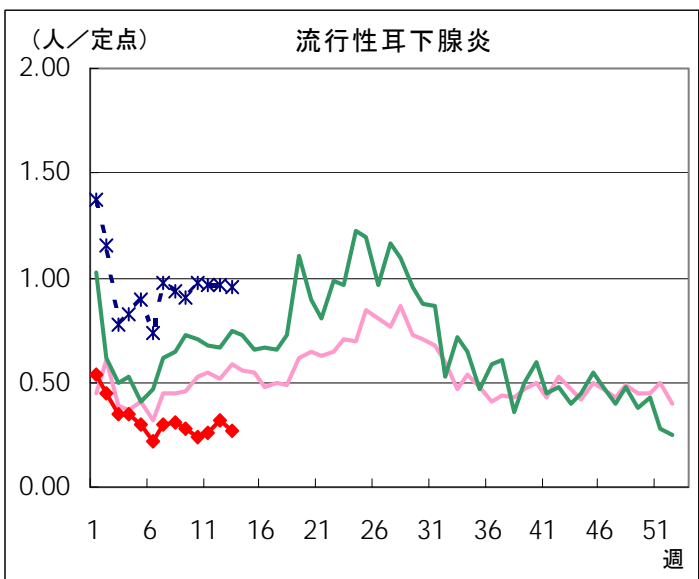
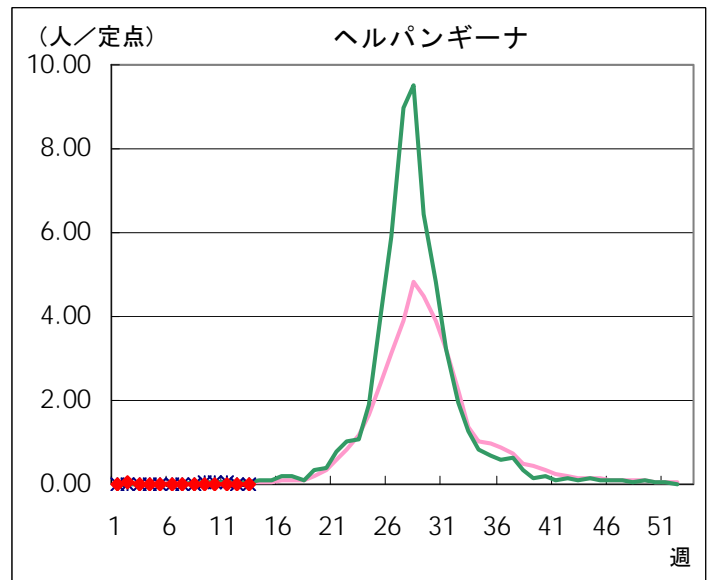
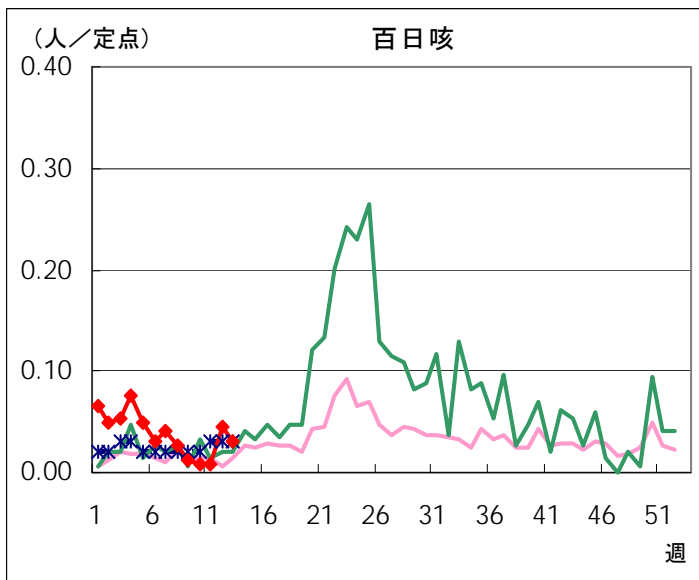
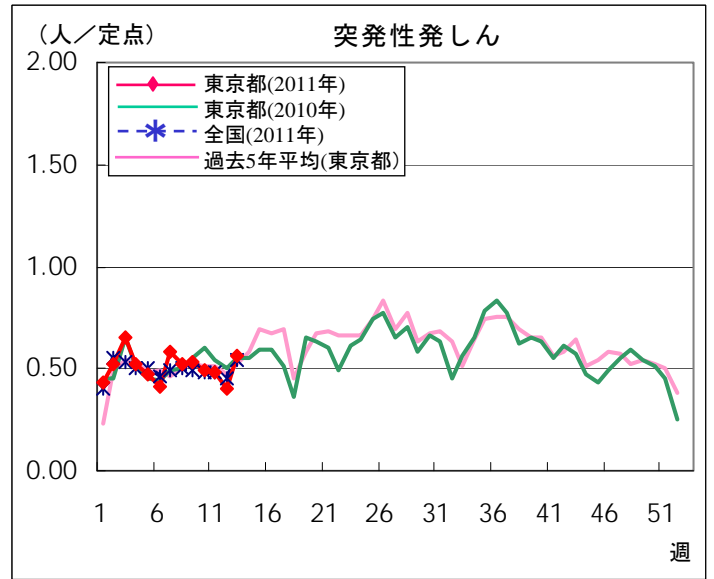
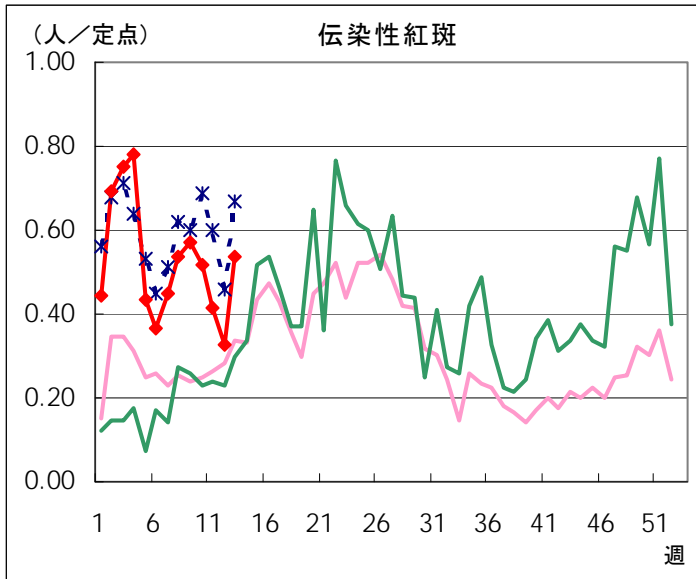
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				3.00		
中央区				3.00		
みなと				5.22		
新宿区				3.83		1.00
文京				1.83		1.00
台東	0.25			3.71		
墨田区			0.40	6.25		
江東区	0.22			10.43		1.00
品川区				5.67		
目黒区	0.40			5.38		1.00
大田区	0.08	0.08	0.17	9.40		
世田谷	0.31		0.13	8.40		0.50
渋谷区				1.50		
中野区			0.29	4.73		
杉並	0.30			5.75		
池袋				6.86		1.00
北区	0.29		0.29	7.09		
荒川区				8.71		1.00
板橋区	0.10			2.75		
練馬区	0.46			5.71		0.50
足立	0.08			12.50		0.50
葛飾区			0.13	10.08		
江戸川	0.25			11.00		
八王子市	0.27		0.09	16.67		
町田			0.63	12.62		
西多摩				2.29		
南多摩	1.00			10.79		2.00
多摩立川	0.64		0.07	7.10		
多摩府中	0.61	0.06	0.06	9.36		
多摩小平	0.67		0.07	6.83		
島しょ	1.00			6.00		

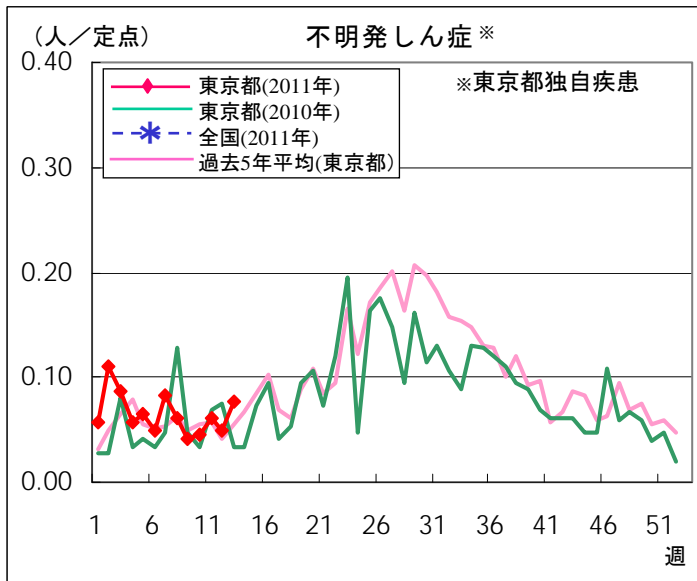
東京都	0.27	0.01	0.08	7.76	-	0.30
-----	------	------	------	------	---	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2011年13週現在

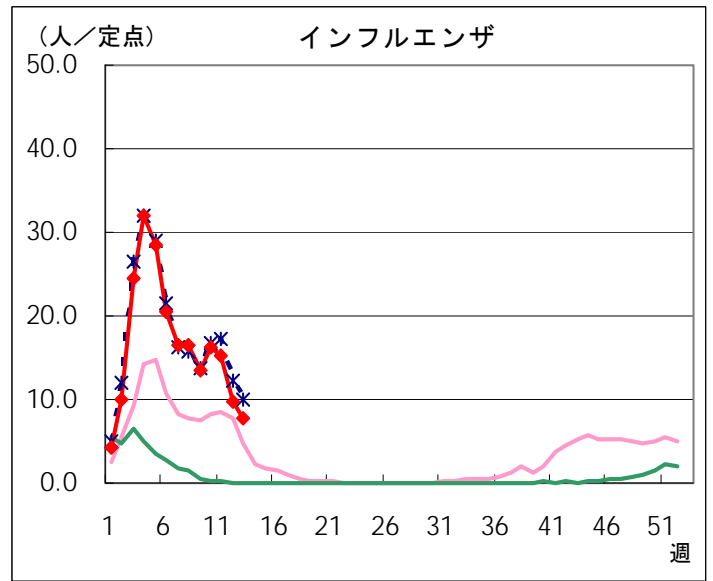
◆ 小児科定点



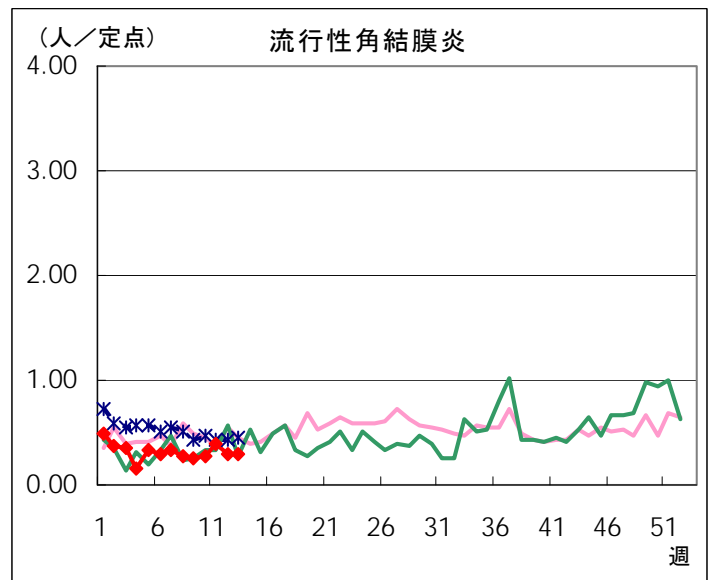
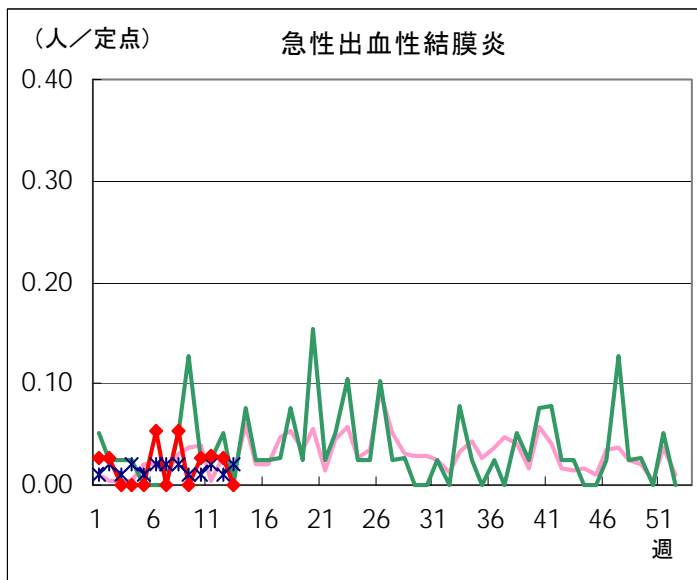




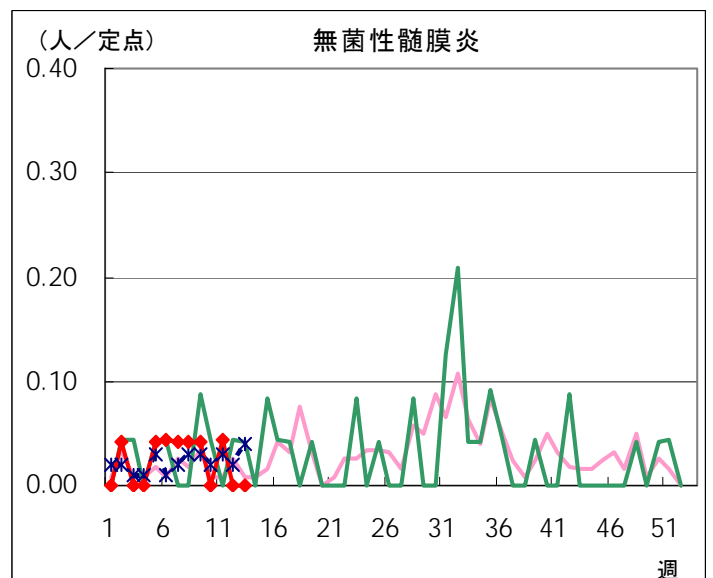
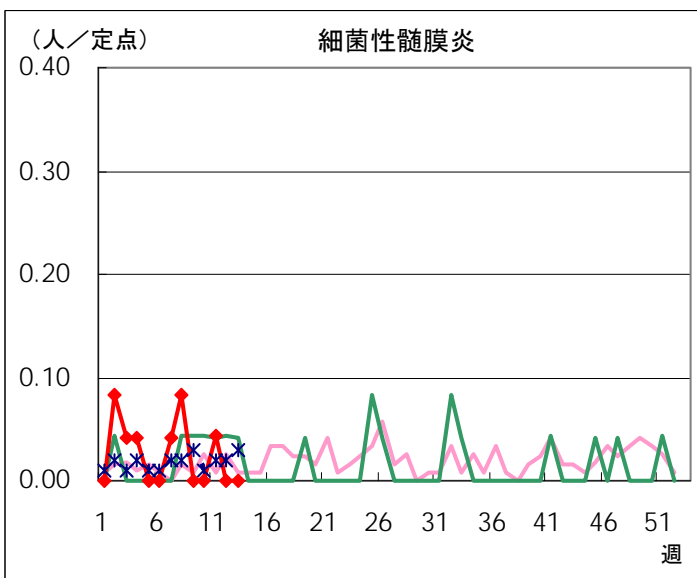
◆ インフルエンザ定点

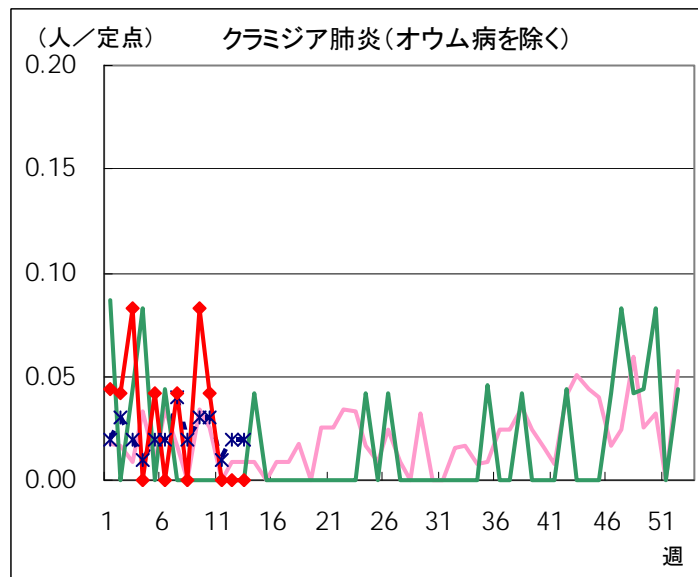
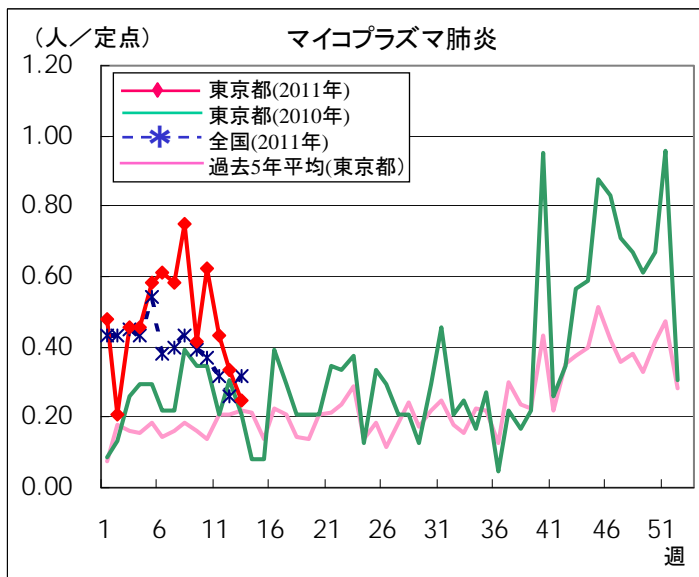


◆ 眼科定点

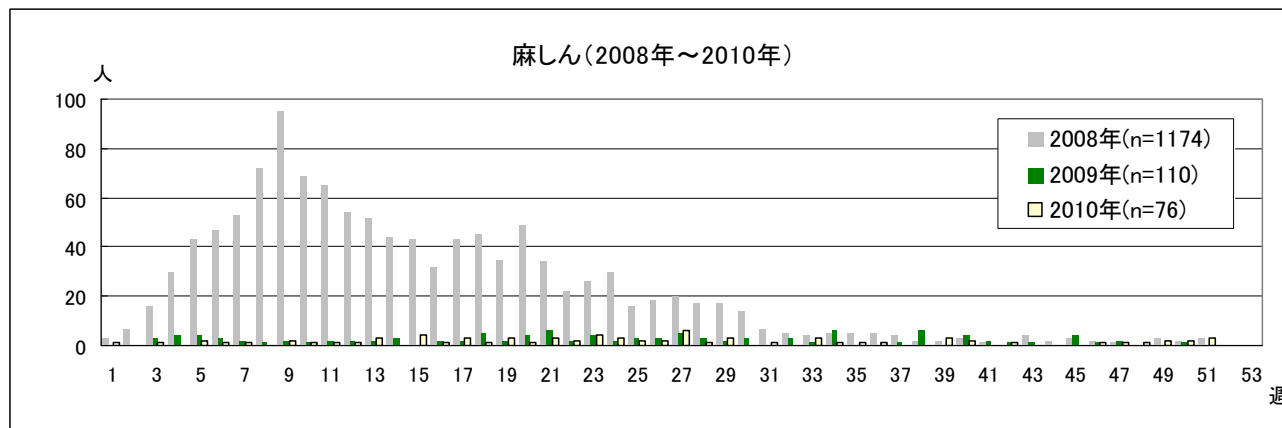
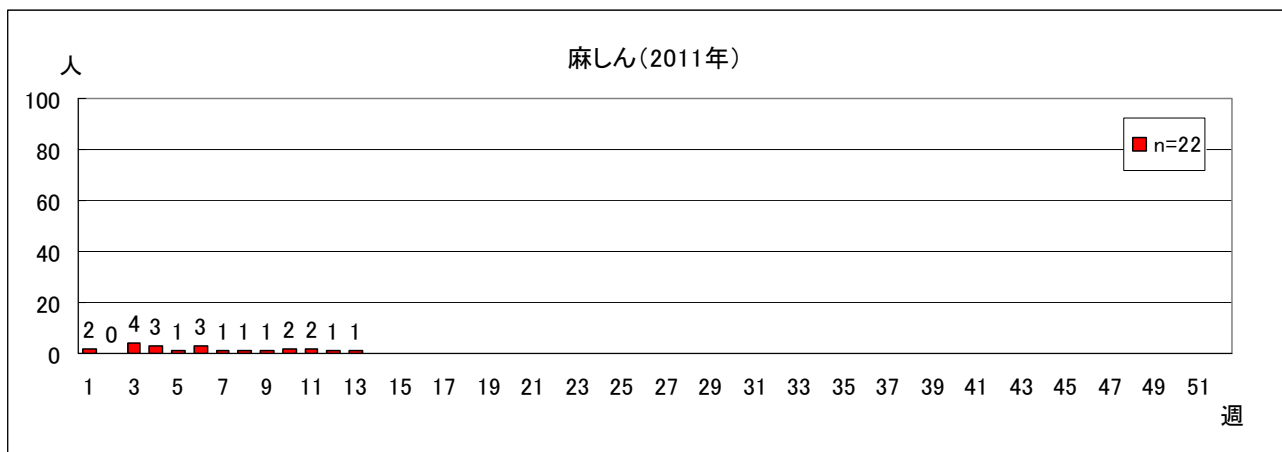


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2011年13週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関からいただきました、インフルエンザ迅速診断結果とコメントを下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		医療機関数*	備 考 (カッコ内は型記載なし)
	A	B		
千代田	0	6	1	
新宿区	1	15	2	(1)
台東	3	17	5	(6)
江東区	44	85	10	(4)、他にA・B同時陽性 1
品川区	1	15	3	(2)
目黒区	10	33	5	
大田区	5	38	9	(15)、他にA・B同時陽性 1名
世田谷	8	81	11	(27)
中野区	6	40	9	臨床診断 6名
池袋	2	10	1	
北区	16	21	6	(19)
荒川区	6	22	2	
足立	3	40	4	
八王子市	43	188	13	(6)、他に臨床診断 2名
町田	4	25	4	(3)
西多摩	6	14	6	(5)
南多摩	4	127	9	(4)
多摩立川	3	28	4	(4)
多摩小平	12	34	10	(20)
島しょ	0	12	1	
合 計	177	851	115	

* 迅速診断結果をご報告いただいた医療機関数

- コメント
- ・ 3歳児、A型とB型が同時になり患。
 - ・ 春休みに入り、患者は減少。
 - ・ インフルエンザの患者が減少している。
 - ・ インフルエンザはB型がほとんどで、まだ残存しています。
 - ・ すべてインフルエンザB型です。いずれも軽症で、確実に減少しています。

定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
3/18	ウイルス性細気管支炎	2M	咽頭拭い液	RSウイルス	遺伝子
3/16	ウイルス性細気管支炎	3M	咽頭拭い液	RSウイルス	
3/8	百日咳	7M	鼻汁	百日咳菌 メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (コアグラーゼ: VII型) (毒素: SEA+TSST-1産生) 感受性は①参照	分離同定 薬剤感受性
3/2	百日咳	9M	咽頭拭い液	百日咳菌	遺伝子
3/22	百日咳	9M	咽頭拭い液	ライノウイルス インフルエンザウイルスB型 ※	
2/25	百日咳	10M	鼻汁	百日咳菌 メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (コアグラーゼ: V型) (毒素: 非産生) 感受性は②参照	
記載なし	ウイルス性細気管支炎	10M	咽頭拭い液	ライノウイルス インフルエンザウイルスAH3亜型 ※	遺伝子
3/16	感染性胃腸炎	1	糞便	A群ロタウイルス	抗原
3/24	不明発しん症	3	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	遺伝子
3/5	手足口病	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス インフルエンザウイルスAH3亜型 ※	
3/23	頸部リンパ節腫脹	12	咽頭拭い液	EBウイルス	
3/16	百日咳	66	咽頭拭い液	百日咳菌	
3/17	ウイルス感染症	記載なし	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス	

※ 下記「遺伝子検査法によるインフルエンザの亜型」の集計数に含まれる。

薬剤感受性検査結果 : メチシリン感受性黄色ブドウ球菌

参照番号	CEZ	CTX	IPM	EM	CAM	GM	VCM	MINO	OFLX	ABPC	MPIPC
	セファゾリン	セフトキシム	イミペネム	エリスロマイシン	クラリスロマイシン	ゲンタマイシン	バンコマイシン	ミノサイクリン	オフロキサシン	アンピシリン	オキサシリン
①	S	S	S	I	S	S	S	S	S	S	S
②	S	S	S	S	S	S	S	S	S	R	S

s: 感性(感受性), I: 中等度, R: 耐性

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm09*型
12週	0	14	12	0
2010-2011年 シーズン累計**	0	169	57	188

* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記をAH1pdm09とします。

** 2010-2011シーズンの開始は第36週(2010年9月6日~9月12日)

病原体検査情報 【検出病原体別・週別】

検出病原体		2011年							
		5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週
ウイルス	アデノウイルス	3		8	8	2	1		
	ライノウイルス	2				4	2	3	2
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス		1	5	2				1
	単純ヘルペスウイルス								
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	2	1	2	3	3	1	3	1
	EBウイルス			4		1			1
	サイトメガロウイルス					1	1		1
	ムンプスウイルス						1		
	麻疹ウイルス								
	風しんウイルス								
	パルボウイルスB19	3	1	1	1	1		1	
	RSウイルス	3		2	3		2	1	2
	ノロウイルス				2	1	1	1	
	ロタウイルス			1			1	2	1
インフルエンザウイルスAH1									
インフルエンザウイルスAH3	11	5	14	9	10	7	6	14	
インフルエンザウイルスB	5	2	2	7		9	7	12	
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	33	10	5	3	2	2			
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス									
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌				1	11			
	百日咳		1	1	3			8	4
	マイコプラズマ								
	その他の細菌	1		1	2				2
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2011年5週～2011年12週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	197	28	65	27	17	4		2		1	6	20	2	1			102	
ウイルス	アデノウイルス	5	5	5	1		1	2				2					1	
	ライノウイルス	5	1	5													2	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	2		1		3				1	1	1						
	単純ヘルペスウイルス																	
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7										2	7					7	
	EBウイルス		1			1						1						3
	サイトメガロウイルス																	3
	ムンプスウイルス													1				
	麻疹しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											4	3					1
	RSウイルス		4	7														2
	ノロウイルス				5													
	ロタウイルス				4													1
	インフルエンザウイルスAH1																	
	インフルエンザウイルスAH3	70	1	2			1						1					1
インフルエンザウイルスB	41		1														2	
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	54	1																
デングウイルス(抗体を含む)																		
その他のウイルス																		
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌			12														
	百日咳			16													1	
	マイコプラズマ																	
その他の細菌			5														1	
その他の病原体																		

<感染症豆知識>

アシネトバクター感染症

アシネトバクターは好気性のグラム陰性桿菌で、土壌など自然環境に存在し、人皮膚の湿潤部や動物の排泄物からも分離されるが、非侵襲性で健常者には無害である。通常のアルコール系消毒薬により死滅する。短棒状でアシネトバクターの名は「動くことができない菌」というギリシャ語からきている。

アシネトバクター属は 30 菌種以上知られるが、感染症原因菌の大部分はアシネトバクター・バウマニである。

昨年、帝京大学病院で多剤耐性アシネトバクター・バウマニ（MRAB、定義はカルバペネム、アミノグリコシド、フルオロキノロンの 3 系統の抗菌薬に耐性）の集団院内感染が問題となった。60 人が罹患し半数が死亡、その 1/3 は死亡との因果関係が否定できなかった。近年国内で院内感染例が散見されるが、検出される MRAB は韓国、中近東や米国などから流入してきた菌株と考えられている。糖尿病や癌末期など感染防御機能が低下しているうえに、気管内挿管やカテーテル留置をされた患者が感染し重篤な経過になっている。効果が期待される薬剤はコリスチンとチゲサイクリンであり、コリスチンは昨年 10 月「希少疾病用医薬品」に承認された。米国では 1990 年代に MRAB の院内感染事例が多発し、カルバペネム耐性菌が 2007 年には 34% と増加した。本邦では 2009 年の厚生労働省のサーベイランスでは MRAB 率は 0.19% と低い。既に MRAB が定着している米国と違い、MRAB 検出時に直ちに感染経路を特定し、患者の隔離、病室の消毒など迅速な対策をとり、MRAB の病院環境への定着を防ぐことが重要と提言されている。厚生労働省は 2011 年 2 月から 5 類感染症の基幹定点把握疾患とした。

（文責 くろさわ子ども&内科クリニック 黒澤サト子）